

皆様、一年間ご協力ありがとうございました！

## 20年度理事・監事一同

埼玉私学保連の活動に理事として参加をして、多くの他校の先生方・保護者の皆様との出会いがありました。一保護者としては望めなかったこの出会いは、私の心の財産になりました。

浦部 真理子

＝皆さんと共に様々な行事を通して“かけがえのない感動”を体験することができました。「みなさんに感謝」です。そして巡り合わせてくれた「息子たちにも感謝！感謝」です。

佐藤 多賀子

埼玉の私学で学ぶ児童生徒たちが安心して学生生活を送れるよう、保護者の方々も自校内はもちろん学校間同士での意見交換をすすめることで、新しい協調・団結がふくらんでいく埼玉私学保連であることを願ってやみません。

森本 雅枝

今年度6月の総会で新入副会長になり、7月の日私学保連総会・8月の教育研究会と瞬く間に過ぎ、振興大会・研修会の準備と運営、結構ハードな一年でした。関わられた皆様に感謝申し上げます。

早船 雅文

星野のサブとして山岡理事と一緒に埼玉私学保連の理事を勤めたこの一年は埼玉での全国大会、振興大会、研修会等スタッフとして楽しく参加しお手伝い出来た事を嬉しく思います。

中嶋 みゆき

新しい環境に接しました。考えさせられること学ぶことも多い1年でした。この会により多くの方が参加し、より良い会になることを期待します。ありがとうございました。

内田 明子

発足して丸2年。多くの皆様に支えられた活動であることを肝に銘じ、立ち上げのときの真摯な気持ちを忘れずに、誠実な活動をしていきたいです。

待鳥 美光

埼玉私連での出会い、学校を越え『子ども達のため』と思いをつなげて全国総会をはじめ多くの行事を素晴らしいお仲間と共に楽しく活動が出来たことに感謝しております。「ありがとうございました」。

近藤 順子

役員はいつもパワー全開。理事会、全国研修会、振興大会…。私学を思う熱い心をもらいました。子どもの笑顔を守る私学の振興、皆さんで目指しましょう。

早川 茂

今年は、大きな前進があった年だったと思います。私本人としましては、あまりお力にもなれず、大変申し訳無いと思っております。今年は本当に厳しい年になりそうですが、こんな時だからこそみんなで、力を合わせてがんばりたいですね。

真渡 真一

7月の全私保連総会の埼玉での開催が成功裏に終わり、また11月の振興大会の大成功と今年度は鶴野会長の下実績を残すことができとても充実した活動ができました。

村野 健二

埼玉私学保連で出会った方々は、私にとって大切な宝物となりました。

土屋 里香



平成20年度 埼玉私学保連 研修会  
一年間お世話になりました。ありがとうございました。

久保田 秀樹

埼玉私学保連の一員としてのこの一年、私が得た最大のもの、それは、他学校の代表の方々と関わりを持てたことに尽きます。今後も大切にできたらと切に思います。「感謝」です。

五十嵐 由紀子

2年目の埼玉私学保連の活動が認知され、少しずつ成果が出てきた1年でした。石の上にも3年といわれますように、もう1年が重要と考えます。教育の場をもっと色彩豊かな活力あるものにしたいと思いますので、保護者の皆さんの一層のご参加、ご協力を得て前進させたいと思います。

織田 正道

実行委員会等出席の日程調整がつかず、行事開催日のみの参加が多く皆様に大変ご迷惑をおかけしました。

浅見日出雄

幸運にも発足以来、本会に携わる事ができ、紆余曲折のなか請願署名の議会採択にもこぎつけたのは皆の力です。更なる飛躍をご期待申し上げます。

大島 匡

他校の役員の皆様と、充実した活動をすることができました。

山岡 明子

最大のイベントであった全国大会を無事に運営し、主催者・参加者から高い評価を得られたのが良かったと思います。行政との協働がこれからの大きな課題ですね。

林 慶寿

全国大会に参加することができて、大変勉強になりました。ありがとうございました。

鈴木 弘彦

# vol.4 Saishigakuhoren NEWS

## 埼玉私学保連ニュース



### 平成20年度を振り返って

..... 会長 鶴野 幸雄



平成20年度も、もうすぐ終わろうとしています。この一年間、保護者会の皆様には埼玉私学保連の活動にご支援、ご協力頂きまして大変ありがとうございました。

今期2年目に際し、この連合会がさらに発展するよう、定期総会での会長就任挨拶時に3つの今期活動方針を掲げさせて頂きました。

◆1つ目は、日私学保連の全国総会・埼玉大会（7月17日・18日）の開催と成功。

◆2つ目は、埼玉県振興大会（11月24日）開催と成功。

◆3つ目は、公費支出の公私間格差の是正を求める「請願活動」の推進と請願採択。

お陰様で各校の保護者会の皆様と各学校のご支援により、掲げた3つの目標もこの一年間の活動で、無事に達成する事ができました。特に、昨年12月の県議会への請願では、一作年の43万より多い、45万余名の署名を頂き、県議会で審議、採択されるという数年越しの悲願を達成することができました。これにより、平成21年度の小中高予算として、私立学校父母負担軽減事業補助予算として、前年度比較62,929千円、私立学校運営費補助予算として301,912千円の増加を勝ち取ることができました。



平成21年度 主な事業予定です。多くの方のご参加をお願いいたします。

※関係団体との合同事業

- 5月23日（土） 加盟校等代表者連絡協議会 （埼玉会館）
- 6月14日（日） 定期総会 （ラフレさいたま）
- 8月21日（金） ※埼玉私学教育研究大会『保護者と教師の集い』（ラフレさいたま）
- 10月 加盟校等代表者連絡協議会 （会場未定）
- 11月19日（木） 埼玉県私学振興大会 （さいたま市文化センター）
- 12月1日（火） ※日私学保連 私学振興全国大会 （日比谷公会堂）
- 2月中旬 保護者会研修会 （会場未定）

# 平成20年度私学振興大会を終えて



11月23日さいたま市文化センターにて、県内私立学校46校の保護者のご参加により、2000名を越す盛大な「平成20年度埼玉県私学振興大会」を、保護者会連合会と中高協会との共催により開催することが出来ましたことに、まずお礼を申し上げます。

当日の開催時間には、小雨の中大勢の方々にエントランスに集まっただきまして本当に感謝いたします。又予想を超える参加者の為十分に着席できない方もおられたと聞いて、実行委員会の不手際と反省し、次年度の大会に生かしたいと思っております。

今回の大会の趣旨は～埼玉の私学教育を考える～でした。まずは埼玉県私学教育の現状をしっかりと理解することにより、われわれの活動が積極的に、真剣にできるのではないかと考えました。

またスローガンとして

- ①学校選択の自由を保障する教育現場の整備
- ②私学教育充実のための私立学校への補助金の増額 を掲げました。

これは正に公私間格差を是正するための公費補助を求める請願署名活動の成果であり、目指すところは私学教育の充実には他ならないからです。

大会ではこれらを「大会決議案」として採択しました。さらに「埼玉私学の情勢報告」をすることで保護者の皆様方はもちろん、来賓の皆様方にも埼玉の私学の現状をきちんと把握していただいたと思っておりますし、この大会が意義あるものだということが理解されたと思っております。

その請願署名は最終的に451,292票も集まり、大会時来賓の皆様方にその署名の重みを訴えましたお陰もあり、請願審議は12月埼玉県議会定例会において「採択」されました。このことも保護者の皆様にお礼を申し上げますと共に、今後これらの成果を見ていきたいと思っております。

『生徒のアトラクション』として浦和実業学園中学校・高等学校のバトン演技というユニークな演技は参加者を魅了しましたし、独協埼玉中学高等学校の大人数での吹奏楽の演奏も迫力あり、両校の先生方の統率と先生、生徒間の信頼関係（エネルギー）を垣間見た気がします。

今大会は埼玉私学保連として2年目の大会で、1年目はイベント性が高く、今回は現実・現状を知るという観点から、埼玉私学の情勢を具体的な数値で理解してもらおうと思い開催しました。

当日、応援いただきました各学校の皆様本当にありがとうございました。今回も反省点は少なくありませんが、皆様方の一生懸命な応援姿勢に打ち消されたような気がします。いろいろな課題を平成21年度の埼玉私学保連の活動（振興大会等）へ反映させたいと思っておりますので、今後も更なるご参加、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

(副会長・振興大会実行委員長 織田正道)



浦和実業学園中学校・高等学校バトン部22名のみなさん



獨協埼玉中学高等学校吹奏楽部104名のみなさん



・入部間もない中学バトン部は、日本トップクラスの憧れの高校の先輩と同じステージに立てる喜びにあふれていました。  
“音楽はハートです”をモットーに掲げる吹奏楽部の演奏は、コンクールとは別の世界で真摯にクラシック音楽と向き合っています。その力強い演奏は、2000人の会場に響きわたりました。

(副会長 森本雅枝)

## 平成20年度研修会報告

# ハラハラドキドキ それが親の性（さが）

跡見学園女子大学  
准教授・宮崎圭子氏



アサーティブな親子関係を！

2月21日午後1時半から、ラフれさいたま3階桜の間にて、県内私学30校200人を超える参加者で、「平成20年度埼玉私学保連研修会」を開催いたしました。

第一部は、跡見学園女子大学准教授宮崎圭子先生の講演「ハラハラドキドキ、それが親の性—思春期の子供と共に歩むには」という題で、思春期の子どもと親の関わり方について様々な実例を挙げてのお話を頂きました。第二部では、「保護者会の実践報告」として、東野高等学校村の会議の栗村さんと穂積さん、小松原女子高等学校父母協力会の成沢さん、そして立教新座中学校・高等学校セントポール会の野溝さんから、それぞれ個性豊かな活動報告を頂きました。

参加していただいた皆様には、この会がご参考になれば幸いです。また寒い中御運びいただきありがとうございました。

(副会長・研修部長 早船 雅文)

**Key Word!** アサーションとは自分の考え、欲求、気持ちなどを率直に、正直に、その場の状況にあった適切な方法で述べることです。

## 保護者の活動発表



東野高等学校「池の会」のユニークな活動が紹介されました。



小松原女子高等学校 父母協力会の報告。  
会場を一気に引き込む絶妙の話術でした。



立教新座中学校・高等学校 セントポール会 保護者と教職員が一体となった活動が紹介されました。

三校三様の活動紹介、とても楽しく聞きました。私学の校風はそれぞれ特徴があり、他校の活動に触発されたり、ヒントをもらえたりすることが多いですね。このような情報交換の場を、これからもつづけていきます。